

## 入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
<b>特色選抜:</b> 2/4(木) <b>一般選抜:</b> 3/8(火)学力検査 3/9(水)面接	<b>特色選抜</b> 1/26(火)~27(水) <b>一般選抜</b> 2/23(火)~24(水)	<b>特色選抜</b> 2/13(土) <b>一般選抜</b> 3/16(水)	主要5教科(5段階)+実技4教科(5段階)×2=65点 中1:65点+中2:65点+中3:65点=195満点

教育のプロ  
トライさん



## 傾向

1度目の願書提出の後、各高校の入試倍率が発表される。1度だけ志願先の変更が行われ、このときに徹底した人数調整が行われるので、各高校の入試倍率は1.0倍前後となる。出願先を決める際は、それまでに受けてきた基礎学力テストの結果を基準とするのが一般的。入試までに実力をつけておくことはもちろんだが、1月上旬に行われる最後の基礎学力テストに向けた対策を優先したい。

## 科目別対策

### 英 語

大問1・2がリスニング。大問3が語彙、文法、英作文。大問4~6が長文読解の構成になっている。長文読解は対話文形式で英語の質問に対して英語で解答する問題や、英作文が出題される。基礎知識を問われる問題が多いため、教科書の内容をしっかりと把握しておく必要がある。難しい問題集よりも、学校のワークや基礎学力テストの見直しをしておこう。

### 数 学

大問1が計算や作図などの基礎問題。大問2~4が方程式・関数の問題。大問5が図形の証明問題となっている。大問1は配点が約3割と高いので得点源にしよう。見直しの時間を確保することがポイント。また、関数・方程式の基本問題が毎年出題され、対策をしておけば大問2~4で確実に得点できる。出題傾向に変化がないことが特徴なので過去問演習で傾向を掴むことがカギとなる。

### 国 語

大問4問構成。記述問題が多いことが最大の特徴。小説、説明文では読解力・記述力と漢字の知識が必要になる。この2問で約70点の配点。読解力・記述力を身につけるために多くの問題に触れておこう。また、作文は減点方式のため、誤字脱字がないように気をつけよう。事前に文章の大筋を作り、与えられた題材に合わせて書きかえられるように準備しておこう。

### 理 科

大問5問で構成。生物・地学・化学・物理の各分野からバランスよく出題される。電池・イオンは例年出題されているが、それ以外の単元は毎年変わるので、苦手分野をできる限りなくしておくことが得点するポイント。近年、記述問題が増えているが、難問は少ない。そのため、教科書や基礎学力テスト程度の問題に多く取り組むことで、高得点を狙える。

### 社 会

大問6問で構成。地理・歴史・公民の全ての分野から出題される。地理は産業・貿易、歴史は中世・現代、公民は経済・政治が例年出題されている。地理と歴史で70~75点の配点になるため、上記の頻出分野が苦手な場合は対策しておこう。また、各大問に1つは記述問題があるので、指定語句を使って答える条件があるので、似た形式の問題で、対策しておこう。